

	学校名 (運動会日)	学校における授業の様子と指導・助言の内容① (→授業の様子、○→指導・助言)	学校における授業の様子と指導・助言の内容② (→授業の様子、○→指導・助言)	成果や課題・当日の様子など (実施後の報告)
①	柏小学校 (5/26)	訪問日時・場所 (平成30年5月10日 (木) 体育館) 内容 (クイックピラミッド・グライダー)	訪問日時・場所 (平成30年5月23日 (水) 体育館) 内容 (一人技・天空の城・ミニタワー・クラス扇)	・技の指導の仕方、補助の仕方等指導主事の指導・助言を生かして、学年の中でも共通理解を図ることができた。 ・安全な指導には留意してきたが、補助等で安全面を更に強化していく必要がある。 ・当日は、実に見事に全員が互いに信頼し、協力し合って全ての技を完成させた。 ・児童の体力が以前に比べて落ちているが、技の難易度を落としても組体操で得られる達成感、成成感は大い。
		・5・6年合同、約200名で実施。 ・指導体制は8名。 ・補教教員と「本時の指導」を文書で共有し、人が足りなければ管理職が率先して練習に参加していた。 ○クイック・ピラミッドでは、乗り手の乗る位置や手のつき方について助言した。 ○グライダーでは、乗り手を無理な体勢で担いでいるグループが見られたため、担ぎ方や下ろし方の手順を再度指導すること、必要に応じてポジションチェンジをすることなどを助言した。また、グライダーの状態での隊形移動は、練習の進度によって慎重に判断するよう指導した。	・5・6年合同、約200名で実施。 ・指導体制は9名。 ・学年によって異なる技を同時に決める構成。 ○練習時間を別々にとるなど慎重に練習していたが、6年生の天空の城の方が難易度が高いことから、天空の城については全グループに補助をつけるよう指導した。 ○クラス扇は、三段ピラミッドの上で四段目が立って扇を作る構成。練習段階では、土台が不安定であったり四段目が立てない様子が見られたりしたため、扇の前後に補助者をつけることや、技の構成を変更した方が安全かつ確実に技を決められることを助言した。	
②	第三小学校 (5/26)	訪問日時・場所 (平成30年5月17日 (木) 校庭) 内容 (流れの確認、立ち位置の確認、やぐら・ウォール、サボテン・ウォール)	訪問日時・場所 (平成30年5月24日 (木) 校庭) 内容 (通し練習)	・安全面に配慮しながらも児童にとって達成感のある構成内容であり、当日は集中して取り組み、教員の補助を必要とすることなく行うことができた。練習の成果を発揮し、「サボテン・ウォール」や「やぐら・ウォール」を全員成功させることができた。 ・4月に行われた体育実技研修で指導していただいたことに留意し、日本体育大学の「Enjoy組体操」の映像内容を参考にした。けがが多い「サボテン」「倒立」「ダイブ」「人間起こし」「全員ピラミッド」等を行わず、時間差で順番に演技することで美しさを表現したり、横に長く広げ見栄えのするものを選んだりした。
		・指導体制は18名。(5・6年6学級約180名) ・校内指導体制が整っている。児童の取り組み姿勢も素晴らしい。 ・人間起こし等けがのリスクの高い技を行わず、けがのリスクの低いタイミングがそろうときれいな技を選んで指導していた。 ○立ち位置の確認は、教員で事前に共通理解を図った上で、マーク等で明示し、短時間で行うように指導した。 ○やぐら・ウォールやサボテン・ウォールでは、準備時間が短く、隣の児童との間隔が広すぎて演技でできなかったり、急いで完成させようとして不安定な場面があったりしたので、準備時間に余裕をもたせて安全に演技させるよう指導した。	・指導体制は11名。 ・全体的に児童がよく集中し、きびきびとした動きで取り組んでいた。 ○5人フラワーでは、なめらかな動きを表現するために、カウントに合わせて足をしっかりと伸ばすことを具体的に示すように指導した。 ○クイック・ピラミッドでは、「せーの」という声掛けがよくできていた。完成時に顔を上げて笑顔を見せられるとよいことを助言した。 ○やぐらウォールでは、準備時間がしっかりと確保されていたが、立ち上がった状態で決めポーズを待つ児童が多かったので、足場をしっかりと安定させてから立ち上がるとよいことを指導した。	
③	第五小学校 (5/26)	訪問日時・場所 (平成30年5月16日 (水) 校庭) 内容 (波・補助倒立・肩車・サボテン・人間起こし)	訪問日時・場所 (平成30年5月22日 (火) 校庭) 内容 (場所の確認、通し練習)	・当日は緊張感を伴い、よく集中して演技に取り組んでいた。全体指導の教員が、補助に入るべき場所、立ち位置、補助の仕方を練習から教員に伝え、当日も十分に安全に配慮することができた。 ・細かな技のポイントは、全ての児童に徹底させることはできなかったが、指導主事からの指導・助言をすぐに児童に伝え、修正するように努力した。 ・当日演技に参加できない児童は、事前から把握していたため、カウントをとる役割を与えた。音楽を入れずに、子どもの声がBGMになることのよさを、見ている人たちも実感することができた。 ・練習前に全体指導者が練習内容のプリントや確認事項を記載したプリントを作成し、練習に入る教員に配布し、安全対策を行った。
		・5・6年合同で実施。 ・指導体制は13名。 ・児童は教員の指示をよく聞いて行動できていた。 ○サボテンでは、土台の児童の腕が伸びきっていなかったり、上に乗っている児童の膝が曲がっていたりしたためにバランスが悪かったペアがあったため、技のポイントを細かく指導するよう助言した。 ○波の隊形で腕を組む際に、右腕が上で左腕が下など指導したことを徹底すると動きもよく見えることを助言した。 ○けがにより運動できない児童もいた。役割を与えて参加できる工夫をするよう助言した。 ○金具のヘアピンを頭にしていたり、手首にヘアゴムをまいたりしている女子児童がいた。全体で統一して指導するよう指導した。	・5・6年合同で実施。 ・指導体制は18名。 ・場所の確認を行い、通し練習を実施。 ・技を組み立てる際に、「せーの」や「1, 2, 3」など児童同士の声掛けがよくできていた。 ・けがで運動できない児童にも役割があり、一体となって演技を作り上げようとしていた。 ・前回課題であった、女子児童のピンなども改善されていた。 ○技が完成できなかった児童も、ポーズの場面ではポーズを決めるとよいことを助言した。	
④	立川第八中学校 (6/2)	訪問日時・場所 (平成30年5月17日 (木) 体育館) 内容 (ソーラン節・タワー)	訪問日時・場所 (平成30年5月30日 (水) 校庭) 内容 (ソーラン節・タワー・通し練習)	・全学年でソーラン節の最後の場面で3年生が3段タワーを1つ作った。 ・3段タワーを完成させる時間はかかったが、少しずつ組み立て、成功させることができた。サボテンとともに、無事に演技を終えることができた。補助につく教員を指定して安全確保に努めた。 ・ソーラン節については、3年生を中心に全生徒が息を合わせて取り組んでいた。
		・指導体制は2名。(タワーの際には補助の教員6名) ・ソーラン節は、腰も低く、力強い。動きにメリハリがあった。声も出ていた。 ・ソーラン節の最後に、男子は3段タワー、女子は2段タワーを取り入れていた。 ・タワーは選抜メンバーで構成されており、長マットを敷いて、男子13人で行っていた。6人の1段目の周りに3人の生徒が立て膝で手を着き、階段の役割を果たし、登りやすくしていた。 ・1段目だけが声を合わせて上がる練習。2段目と3段目だけで上がる練習を行い、最後に3段タワーを完成させた。補助の教員もしっかりと配置できていた。 ○サボテン、3段タワー共に安全面への配慮は行っているということだが、校庭での練習では、改めて注意するように指導した。	・全校での練習であったため、指導体制は17名。 ・全体でソーラン節を演技、最後に3年生がタワーを作った。 ・生徒はキビキビと行動し、演技もよくできていた。 ○タワーは男子13人で行い、教員が5名補助に入っていた。どの教員がどの場所で、どう補助するか具体的に明確にしておくよう指導した。	

秋の運動会における組体操実施校への市教委訪問[実態把握及び指導・助言] 平成30年9、10月 立川市教育委員会 指導課

	学校名 (運動会日)	学校への指導・助言等① (・→授業の様子、○→指導・助言)	学校への指導・助言等② (・→授業の様子、○→指導・助言)	成果や課題・当日の様子など (実施後の報告)
①	第一小学校 (9/29)	訪問日時・場所 (平成30年9月18日 (火) 校庭)	訪問日時・場所 (平成30年9月25日 (火) 校庭)	・毎時間ごとの指導計画を確認してそれを基に指導を進めることで、他の教員と事前に指導事項を確認することができていた。 ・曲に合わせて教員がカウントを取りながら、技の準備や完成させるタイミングを児童に示して練習することができた。 ・クラスダンス等を構成に取り入れる事で、高学年らしい表現となった。 ・歌詞のない曲だったため、技の準備と完成の境が分かりにくかった。笛や太鼓などで全体の指導者が合図を送ると全ての子どもたちが技の完成のタイミングを合わせることができるので次年度に生かしていく。 ・天候の影響で短縮プログラムのため、運動会当日9時10分から演技が開始となったが、集中して取り組むことができた。 ・骨折など大きなけがもなく、無事に終えることができた。
		内容 (隊形確認、個人技、集団技「橋、扇」) ・5・6年生合同で実施。指導体制は11名。 ・初めての校庭練習のため、心構え等について丁寧に指導していた。 ○校庭に目印になるものが少なく、準備運動の隊形移動に時間がかかり、結果的に列も乱れていたことから、整列のさせ方や指示の出し方について検討するよう助言した。 ○個人技のブリッジでは、曲だけではタイミングがつかめずに、バラバラになる様子がみられたので、太鼓や笛による指示について、実態に応じて取り入れるよう助言した。 ○集団技の「橋」や「扇」では、技自体の難易度は高くはないものの、不慣れな様子がみられたため、技の種類や数について、児童の実態や練習時間から慎重に判断するよう助言した。	内容 (模範演技、隊形確認、通し練習) ・5・6年150名。指導体制は9名。 ・雨天が続き、校庭での通し練習が初という状態であったが、児童は隊形をよく覚えていた。 ・扇やポップアップ・ピラミッドでは、「せーの」という声がよく出ていた。 ○9人ピラミッドでは、大人がついていたが、本番でも安全面での配慮を依頼した。 ○技の完成のタイミングを理解していない児童が多く、完成がそろわないことが多かった。教師、児童で音楽やカウントをしっかりと確認したり、笛の合図等を活用したりするとよいことを助言した。 ○全体の演技を映像で記録していたので、児童に見せ、自分たちで課題を考えさせるとよいことを助言した。 ○一度に多くのことを指導しすぎていたので、スモールステップで指導し、その都度できたことを褒めるとよいことを助言した。	
②	第二小学校 (9/29)	訪問日時・場所 (平成30年9月14日 (金) 体育館)	訪問日時・場所 (平成30年9月21日 (金) 体育館)	・上履き、水筒、タオルの置き場所については、運動の際に接触することがないように、持ち物は一か所に集めて管理するようにした。体育館玄関や舞台奥等のスペースを効果的に活用した。 ・一斉での倒立練習は危険であったので、学年別で交互に練習、時間差をつけて練習をするなど、一斉の練習を避けて練習をした。児童の倒立の完成度が高まり、安全が十分に確保されてからは、可能な限り本番の演技に近付けた練習へと移行していった。また、倒立を補助する児童の受けとめ方や手の離し方等安全に倒立ができるように具体的な受けとめ方、手の離し方について指導・支援の強化を行った。 ・3人タワーで上に立つ児童が不安定であり、特に、タワーから降ろす場面が危険であったので、上に立つ児童に対しては、個別に立ち方や降り方の指導を行った。同時に、土台の児童にも安全な降り方について共通認識を図った。また、曲に合わせて演技をさせることで、全体の呼吸が合い安全が確保されるようになった。 ・演技の完成度が高い児童が手本を示すこと、児童が心の中でカウントをとりながら演技をすることを大切に、ポイントをおさえながら指導を継続した結果、完成度が高まっていった。
		内容 (1人技、2人技、3人技、5人技、多人数技) ・5・6年5クラス140名。指導体制は5名。 ・服装、髪型等きちんとしており、練習態度も真面目である。 ・テンポよく、児童を褒めながら指導していた。 ○人数が多いため、体育館いっぱいに広がらないと全員で同時に行う技はぶつかってしまう危険性がある。安全面、全員で組体操を成功させるための心構え等を重視し、上履き、水筒をクラスごとに揃えるように指導した。 ○倒立の指導の際、一斉に行ったため、教員が見切れない場面があった。5・6年のペアグループを作り、交代で行うことで教員だけでなく、児童同士もお互いに安全に注意しながら、学び合いを促すよう指導した。 ○よい動きを見せ、技のポイントを児童同士に気付かせ、掲示物等で共有するとよいことを助言した。 ○3人タワーの上の児童が自分のタイミングで上がったり下りたりしていた。下の人の腕等に手を置き、カウントを取らせること、他と揃っていることが美しいことを指導するよう助言した。	内容 (技の確認、フィナーレの確認、通し練習) ・指導体制は6名。 ・上履き、水筒がきちんと並べられており、前回訪問時の課題が解決されていた。 ・技の上手な児童の動きを見せたり、今までできなかった児童ができるようになった姿を見せたりして児童の意欲を高めていた。 ・倒立の練習では、解除する際、片足ずつゆっくりと下ろす姿が見られ、安全面に配慮した指導が定着していた。 ・ポップアップ・ピラミッドの「せーの」というかけ声が大きく、演技もそろっていて素晴らしかった。 ○3人タワーの練習では、「くずします」という指示ではなく、「上の児童だけしゃがみ、下の子の腕を持つ」「下の児童がしゃがむ」というように音楽やカウントに合わせて具体的に指示を出すよう助言した。 ○トラストフォール (人間起こし) では、安全面に配慮し、1基ずつ、上の児童の手を大人が持って実施していた。本番でも大人を付けるよう依頼した。	
③	第四小学校 (9/29)	訪問日時・場所 (平成30年9月10日 (月) 体育館)	訪問日時・場所 (平成30年9月21日 (金) 体育館)	・導入時の指導を丁寧にいった。しっかりと話を聞かせ、けがの防止に努めることができた。天候が悪い日が続く、校庭での指導ができなかったが、急がず丁寧な指導を心がけた。 ・2人タワーの足の乗る位置、3段ピラミッドの中段の児童の位置の2点についての指導を、5・6年の担任で再確認し、指導することができた。 ・当日は、全員で協力し、全体で完成させようとする姿と自分たちの演技に誇りが見られた。
		内容 (3人技「タワー、飛行機、王冠」、集団技「花火、千手観音、百足」) ・5・6年生合同で実施。指導体制は6名と支援員1名。 ・全体指導の教員の話を真剣に聞き、きびきびと行動するなど、非常に引き締まった雰囲気。支援を要する児童には他の教員が対応するなど、教職員間の連携が取れている。 ・3人技、集団技と種類も数も豊富で、計画的な指導がなされており、児童の意識も高いため、時間を有効に使う練習ができている。 ○3人技の「タワー」では、土台の児童が直立し、乗り手が立ちにくそうな様子が見られたため、土台の首元ではなく肩甲骨のあたりに立たせるように助言した。	内容 (6人技「突ピラミッド」) ・5・6年生合同で実施。指導体制は6名。 ・これまでの成長や行動を肯定的に価値付け、児童の意識を高めてから練習に入ることができた。 ・技や動きにつながる入念なストレッチ (約9分) により、事故の防止に努める姿勢が感じられる。 ○6人技「突ピラミッド」では、まず1段目、2段目のみで練習をさせ、3段目の乗り手を乗せる感覚をつかませていた。1段目と2段目の体勢や距離が技の成功率に影響している様子が見られたため、間隔をつめるように助言した。	
④	第七小学校 (9/29)	訪問日時・場所 (平成30年9月11日 (火) 体育館)	訪問日時・場所 (平成30年9月26日 (水) 体育館)	・緊張感が保てず、全体的に集中力に欠けていた場面があったため、もう一度全体で話し合う機会を作ることで、意識を高めることができた。 ・補助なしでタワー等を作っていたグループがあったため、必ず補助が入るように順番を決めて練習を行うようにした。 ・補助をする教員の動きがかえって保護者等に心配を与える可能性があったため、補助をする教員の方法等再確認させた。 ・当日は、けがなく終えることができた。また、集団行動を取り入れたことで、メリハリのある演技となった。 ・リズム太鼓を使った指導を中心にいったが、テーマや音楽を伝えてゴール・イメージをもたせることで児童の意欲の向上につなげることができる。次年度は、音楽に合わせた演技を行っていくため、早めに指導を開始し、計画的に行うよう指導した。
		内容 (1人技、2人技、集団行動) ・5・6年2クラス40名。指導体制は2名。 ・5年生にマットを使用させる等安全面に配慮して行っていた。 ・昨年度の経験を生かして6年生が5年生にアドバイスする場面が見られた。 ○準備運動だけでなく、整理運動もしっかりと行うよう指導した。 ○倒立の際には、足を下げる際、片方ずつゆっくり下ろすよう指導するとよいことを助言した。また、受け手は、する側とくっつきすぎないこと、相手のふくらはぎ辺りをもつと安定しやすいことも助言した。 ○肩車では、下の子が上体を曲げずに視線を前にして真上に上げるとよいことを助言した。 ○よい動きを見せ、技のポイントを子どもたち同士に気付かせ、掲示物等で共有するとよいことを助言した。	内容 (全員ピラミッド) ・5・6年生+助っ人の4年生、児童全49名。指導体制は4名。途中から補教3名増員。 ○人数が少ないため穏やかな雰囲気であるが、教員が指示している最中におしゃべりをするなど緊張感に欠ける様子が見られたため、統率の必要性について指導した。 ○運動会まで時間がないなか、曲に合わせた練習が十分でない等、計画性に課題が見られたため、管理職や運動会主任が各学年の進捗状況をしっかりと把握し、必要によって技を厳選するなど、慎重に判断するよう指導した。 ○全員ピラミッドでは、技が完成するまでに時間がかかり、土台の負担が懸念されたため、移動の仕方やピラミッドの崩し方について、安全かつ効率的に行うように助言した。	

⑤	第八小学校 (9/29)	訪問日時・場所(平成30年9月10日(月)体育館)	訪問日時・場所(平成30年9月18日(火)体育館)	・本校は「八小ソーラン」とし、「南中ソーラン」の後に一人技(バランス・肩倒立・ブリッジ)二人技(バランス)三人技(扇)学年毎の波フィナーレとして学年毎の垣根等組体操的な要素の動きを入れた。 ・安全面の配慮、主体的な児童の活動について指導した。フィナーレの垣根での上に乗る児童の足を下の子が抱えるように支えること、どちらの足から乗るのかを揃えるよう指導したことで、安定した技にすることができた。 ・安全面の配慮ということで、高さのある技、危険度の高い技は控えた。 ・以上の対応から、練習・本番とけが人等なく無事に終えることができた。
		内容(個人技)	内容(個人技の通し練習、集団技「大松」)	
		・5・6年生合同での実施。指導体制は5名。 ・教員の指示がなくとも静かに整列し、準備運動に真剣に取り組むなど、児童の意識が非常に高い。 ○ブリッジのまま片足で支持する個人技では、難易度に加えて技のタイミングもバラバラな様子が見られたため、太鼓などで拍をとるように助言した。 ○個人技の練習が続き、練習後半は児童に疲れの様子が見られたため、事前に本時のめあてや流れを示し、児童に見通しをもたせるように助言した。	・5・6年生合同での実施。指導体制は4名。 ・全員真剣な表情で、教員の話に無言で聞き入る。細かな指示がなくとも、真っ直ぐに列がそろろう。 ・個人技は先週と比べて技の完成度が格段に向上し、曲に合わせて演技ができるようになっていた。 ・集団技の「大松」では、6年生がこれまでの経験から5年生に技のポイントを助言するなど、教師による教え込みではなく、学び合いによる授業展開を実施。技の発表場面でも、単なる発表ではなく、学び合いの習慣が定着しており、よい点や改善点などを助言し合う様子が見られた。技の発表時に失敗したクラスに対しても、教員が完成するまで支援するなど、熱意が感じられた。	
⑥	第九小学校 (9/29)	訪問日時・場所(平成30年9月11日(火)校庭)	訪問日時・場所(平成30年9月26日(水)校庭)	・ねんざや骨折等の大きなけがは1件もなく、無事当日まで終えることができた。 ・「3人技が上がらなかったら、途中で急いで上げず、その場でしゃがんで待つ」ということを練習の中で徹底して指導した。当日も上がらないグループが2つあったが、落ち着いて待っており、けがの防止につながった。 ・高さのある技は、3人技の飛行機と6人技のポップアップ・ピラミッドの2種に絞った。 ・来年度も「集団行動・2段以下の高さの組体操・ダンス」の3種類を織り交ぜた構成になる可能性が高い。
		内容(一人技、二人技、三人技、隊形確認)	内容(通し練習)	
		・5・6年合同で実施。 ・身だしなみがしっかりしている。水分補給用の水筒も準備済み。 ・児童の意欲を高める教師の声掛けがありよかった。 ○三人技(飛行機)では、前後の間隔が開き、上の児童が落ちないよう指導をするよう依頼した。 ○技の最中のけがだけでなく、場面転換や移動の際にも周りをよく見て動くよう安全面の指導を指示した。 ○金具やプラスチックのヘアピンを頭にしている女子児童がいた。全体で統一して指導するよう指示した。	・5・6年合同で実施。 ・児童の話を聞く姿勢が前回と比較してよくなっている。 ・技の合間で教師が賞賛し、児童の意欲を高めている。 ○技のポーズを決める際に統一した動きとなるよう再確認を指示した。 ○クイック・ピラミッドを作ったり崩したりする際の掛け声がしっかりしていてよい。 ○集団行動の際には、横の列を意識させるとよいことを助言した。 ○音楽に合わせて技が変化するが、スピードについていけない場面がある。音楽のスピードを落とすよう助言した。	
⑦	幸小学校 (10/2)	訪問日時・場所(平成30年9月12日(水)体育館)	訪問日時・場所(平成30年9月27日(木)体育館、校庭)	・児童の体力の実態に即した技の選定・指導計画のもと、指導することができた。 ・練習・本番を通して、大きなけががなく取り組むことができた。 ・自己の伸びや課題を児童が意識しながら取り組むことができた。 ・技についての助言をもとに、完成度を高めることができた。 ・一つ一つの技のポイントをより細かく指導する必要があった。 ・児童の主体的な学習につなげていくために、児童自らが見付けた技のコツを生かしながら指導することが大切である。 ・今後、高学年で組体操をする上で、それまでに各学年でどのような運動経験をさせておくか系統的な指導計画を立てる必要がある。
		内容(1人技、2人技、3人技、5人技)	内容(人数が変わる場面の確認、各技の確認、通し練習)	
		・5・6年生4クラス120名。指導体制は4名。 ・掲示物で、テーマ、心構え等を共有している。 ・服装、髪型等しっかりとしており、集合も駆け足で素早い。 ・ICTを活用し、事前に撮影した技の映像を見せながらポイントを説明していた。 ・扇では、「せーの」という大きな掛け声が出ていてよい。 ○動画のよさを生かし、拡大してどこを持つとよいのか確認したり、練習時に繰り返し流し、子どもたちが自分で見てポイントを見付けたりできるようにするとよいことを助言した。 ○リフトでは、土台の児童だけの練習を行ってから、上の児童を乗せた練習に移行していてよかった。6年生が昨年度の経験を生かして、5年生に教える場面を増やすとよいことを助言した。 ○技のポイントを児童同士に気付かせ、掲示物等で共有するとよいことを助言した。	・移動が素早く、静かに説明等を聞くことができている。 ・サボテンでは、「垣根」という上の児童が下の児童の後ろからものの上に乗る技を取り入れ、その状態から下の児童が頭を後ろに抜き、安全に配慮して実施していた。また、下りるときの「せーの」というかけ声が大きくよかった。 ・5人扇では、かけ声、タイミング等そろっていて素晴らしい。 ・最後の全員ピラミッドでは、4段の高さで1番上の児童も立ち上がらない方法で行い、安全面に配慮して行っていた。 ○ポップアップ・ピラミッドでは、かけ声、タイミングもそろっていたが、一番上がうまく上がらない児童が数名いた。2段目が内側に寄り、高さを合わせることで、上の児童が片足を乗せておくことと乗りやすいことを助言した。 ○雨天が続いたため、校庭での練習が初であった。波の時の各児童の位置がなかなか決まらず、時間がかかっていた。目の前の校舎等の目印を各自決めてそこに向かって移動し、その後中心に向かってつめるように指導するとよいことを助言した。	
⑧	上砂川小学校 (9/29)	訪問日時・場所(平成30年9月13日(木)体育館)	訪問日時・場所(平成30年9月27日(木)体育館・校庭)	次の3点を重点的に指導した。 ① 技を失敗した際に、もう一度挑戦するのかはっきりさせる。 ② ピラミッドで上がれない児童の手をつく位置を変える。 ③ 安全面に配慮して、女子児童の髪の毛を帽子の中に入らないようにする。 これらの指導により、当日までの練習で大きなけがもなく、無事に本番を終えることができた。 当日は少し雨の降る中だったが、力強く堂々とした演技ができた。
		内容(波、隊形確認)	内容(通し練習)	
		・6年で実施。 ・指導体制は5名。 ・児童の服装(身だしなみ)がしっかりと整っている。 ・教師の指示に対し、児童が機敏に行動できている。(児童の反応がよい) ・教師の指示がコンパクトかつ明確で、非常によい。 ○波で組む手について、組み方が逆になる児童がいたので、改めて指導を依頼した。 ○見学の児童の役割について、役割等を与え学習にのぞませる工夫もできることを指導した。	・指導体制は5名。 ・児童の身だしなみはしっかりしている。 ・児童の表情や聞く態度等非常によい。 ・技のポイントや安全面への配慮について教師の指導が丁寧である。 ・けが等で当日参加できない児童には、入場の際の紹介をさせる工夫をしている。 ・人間起こしでは、補助も適切で(児童・教師ともに)ある。 ・全体的に児童の技のキレや動き方など非常によい。 ○技ができなかった場合の対応について、児童に指導するよう依頼した。	

【成果】

○骨折等大きなけががなく、終えることができた。

○4月の体育理論・実技研修、5・6月の運動会における組体操実施校への指導・助言を生かし、教員に、安全な組体操にしようとする意識が見られた。

○組体操以外の集団行動やダンス等を取り入れ、動きの統一感、表現力を見せようとする中でけがのリスクを減らすとともに、互いのよさを認め助け合って表現することができた。

○児童の実態に合った技の選定により、大きなけがのリスクを減らす学校が多かった。

【課題（チェックポイント）】

●高さのある2～3人の技を同時に行わせる時は、どうしてもけがのリスクが高まる。技のポイント、危ない時の安全な解除の仕方等を指導する、児童の実態をしっかりと捉え、実態に応じた表現方法を計画する必要がある。

●初期の段階でテーマや音楽を伝えてゴール・イメージをもたせるとともに、笛や太鼓、音楽を生かした技の準備・完成・解除のタイミングの合わせ方等児童の実態に合わせた意図的・計画的な指導を行うことが大切である。

●児童の主体的な学習につなげていくために、ICTを活用する等児童自らが見付けた技のコツを生かしながら指導することが大切である。